

# 鼎小学校 4 年生 探検隊来校

## 専門学科の研究や技術を紹介

2024年(令和6年) 11月3日 日曜日

南 信 州 新 聞

### 高度な技術にビックリ

#### 鼎小4年生が職業高校を探検

飯田市鼎小学校の4年生が1日、「地域を知る」をテーマにした総合的な学習の時間で近くの飯田OIDE長姫高校を訪ね、職業高校の中で行われている研究や取り組みを学んだ。ロボット製作の現場やコンピュータを使った研究などを実際に体験し、高度な技術に目を丸くする場面もあった。高校側では27の研究や取り組みを用意。児童たちは工業棟や建築棟の各教室や研究室を探検するよう巡った。

お金選別ロボットの製作現場では、トレーの上に無造作に置かれた硬貨や紙幣から、指示されたお金を判別してつまみ上げるロボットの動作を見学した。「細かい部品がたくさん使われているや」どうやって見分けているのか不思議だ」などの感想や疑問が次々と上がっていた。

このほかにも、電動車いすを製作している教室では、パソコンの操作だけで、ライン上を車いすが自動で移動する様子に驚きの表情。実際に腰掛けてみた児童は「動きがなめらか」「座り心地がいい」などと語っていた。



お金選別ロボットの動きに注目する児童たち

小学生を迎えた宮澤直哉校長は「普通科高校との違いは実習の時間があること。実際に見て学び、通いたいと思ってもらえたらうれしい」と言葉をかけた。

掲載記事提供: (株)南信州新聞社



# 羽場地区文化祭 本校生徒出店

## 商業科地域人教育の取組み

2024年(令和6年)11月5日 火曜日

南信州新聞

### 多彩な催しに住民集う

羽場地区  
文化祭

### 〇長高生の出店も

飯田市羽場地区の文化祭が2、3の両日、羽場公民館と羽場中央公会堂で開催された。特別企画として飯田OIDE長姫高校商業科の生徒が出店。2日はあいにくの雨だったものの、3日は好天となり、作品展示や芸能発表、駅伝大会など多彩な催しを多くの住民が楽しんだ。

飯田OIDE長姫高校の生徒は地域人教育の一環で、飯田の文化を学習。文化祭では2日に出店し、水引体験で梅結びなどを教えた。菓子店の船橋屋が協力し、同地区の名水

「猿庫の泉」を使ったくずもちを販売。泉の水で入れたコーヒーも振る舞った。同校3年の原瑞稀さん(18)は「雨で心配したが、思った以上に人が来てくれてうれしい。活動を通して飯田の文化にいかにか水が大切かを知り、地域の人の温かさや郷土愛を感じた」と話した。

文化祭のオープニングセレモニーでは飯田西中学校吹奏楽部が演奏し、羽場獅子舞保存会が演舞を披露した。公民館全体を使い、小中学生や地域サークルの作品を展示。今年の新

くり委員会との座談会を開いた。3日は羽場セントラルパーク周辺で39回目の駅伝大会も開いた。実行委員長の佐々木祥二公民館長は「コロナ禍以降少なくなった個人の出展が戻りつつある。発表の機会とともに、住民が集う場になっている」と話した。



飯田OIDE長姫高校の生徒も出店し水引体験などを企画した

掲載記事提供: (株)南信州新聞社

# 吹奏楽部 第12回定期演奏会を開催

## 大河ドラマの曲を重厚に 吹奏楽部が定期演奏会

OIDE 長姫高

飯田OIDE長姫  
高校の吹奏楽部は2

日、第12回定期演奏会を飯田市高羽町の飯田文化会館で開いた。在校生や保護者、卒業生ら多くの観客が見守る前で、練習を積んだ多彩なジャンルの曲を披露した。

1年生11人、2年生10人、3年生6人の計27人で構成し、コンクールや演奏会に向けて日々練習を積んできた。3年生が抜けるため、定期演奏会と同じメンバーで奏でられる最後の発表の場となった。

3部構成で、1部が同部の単独演奏、



飯田OIDE長姫高校吹奏楽部の定期演奏会

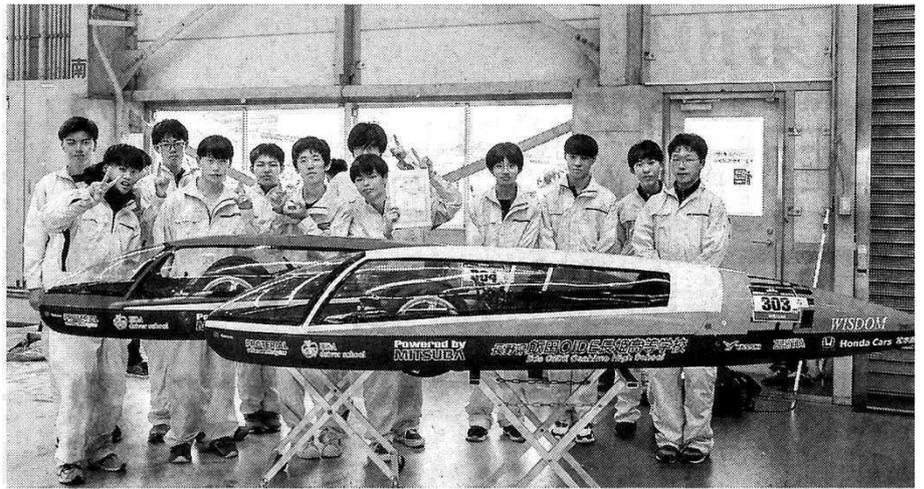
2部がスタジオジブリの名曲集、3部がOB・OGとの合同ステージ。映画インディ・ジョーンズのメインテーマ「レイ

ダース・マーチ」で幕開けし、ノリの良さときれのある演奏で、冒頭から聴衆を魅了した。

NHK大河ドラマから「麒麟がくる」(2020年)と、「軍師官兵衛」(14年)のメインテーマも披露。曲紹介では「オーケストラと日本の文化を融合した曲で、武士の精神性を重んじた音楽を楽しんでほしい」とし、テンポや曲調の変化で主人公の特徴や人生の浮き沈みなどを表現すると大きな拍手が送られていた。

掲載記事提供: (株)南信州新聞社

# 祝 原動機部 高校エコカーレース総合大会 連覇



高校エコカーレース総合大会に出場した原動機部

## 高校エコカーレース連覇

### OIDE長姫原動機部

飯田OIDE 00位のコースを、長姫高校の原動機部の2台が10月26日に愛知県豊橋市で開かれた「第22回高校エコカーレース総合大会」に出場し、優勝と4位の好成績を挙げた。同大会では連覇で、10日に大阪府岸和田市で開かれる「2024エコデン全国大会」に向けて弾みをつけた。とよはし産業人材育成センターの1周約4000mのコースを、当日に配布されたバイク用12Vバッテリーを動力源とする車で50分間走る耐久レース。周回数の多さで順位を争った。車体構造素材などに指定がない「オープンクラス」に同部の2台を含む21台がエントリーした。大会2連覇を果たしたマシン「WISDOM II」を操った尾曾陽生さん(15)は「走る前はとても緊張していたが、走行中には的確な情報提供や励ましもあった。支えてもらいながら結果を残せた」と安どの表情を浮かべた。チームリーダーの清水蓮さん(同)は「50分間走り続けることを目標としていたが、結果として優勝できたことは良かった」と振り返った。4位だった「WISDOM」のドライバー、熊谷漣太さん(16)は「ライバル校に差をつけられる場面があったが、最後まで走り切り、あと少しで2位というところまで追い込めたことは今後につながる」と前を向いた。リーダーの櫻井煌成さん(同)は「悔しい大会になったが、ベストは尽くした。岸和田に向けて改善していきたい」と語った。

### 10日の岸和田大会に弾み

エコデンレース全国大会は10日、岸和田市の岸和田競輪場で開かれる。全国から30台の参加が予定されている。

# 丸山区文化祭に出店協力

2024年(令和6年)11月13日水曜日

南信州新聞

## 多彩な発表住民集う

### 丸山は中高生協力、餅投げも

飯田市丸山地区の文化祭(実行委員会主催)が9、10の両日、丸山公民館であった。今年は5年ぶりに餅投げが復活し、中高生も開催に協力。2日間とも晴天となり、子どもから高齢者まで多くの人でにぎわった。

9日は丸山小学校の金管バンド「かざこしジュニアバンド」の演奏で開幕。約100人が集まり、くす玉を割って開催を祝った。両日とも芸能発表を開き、地元のサー

クルや園児、小中学生が音楽や踊りなどを披露。丸山小、飯田西中生による人形劇や、今年の全国中学校体育大会で県勢初優勝を果たした「ボミエ新体操クラブ」による演技もあった。丸山の文化祭は夜にも芸能発表があるのが特徴で、最後は参加者全員で丸山行進曲を踊った。同館にある石窯を使ったピザ作りやパン焼き体験では、ま

るやま石窯部とともに飯田西中生が協力。来場者は自分で

作った焼きたてのピザやパンを楽しんだ。館内全体に20以上の団体が作品を展示し、個人による出品もあった。公民館前はポップコーンや綿あめなどの販売でにぎわい、飯田OIDE長姫高校の生徒も出店した。

閉会セレモニーでは丸山小の合唱アンサンブル部が歌い、最後は5年ぶりの餅投げをして盛り上がった。藤本清明公民館長は「笑い、楽しみ、

そして感動をテーマに開いた。発表の場があることが大事。地域の子どもたちがからお年寄りまで集まる催しがあることで地域の活性化につながる」と話していた。



5年ぶりに復活した餅投げ

# 野底山森林公園ライトアップ 商業科3年生が イルミネーションを制作

2024年(令和6年)11月14日 木曜日

南 信 州 新 聞



ライトアップや和傘が園内を彩っている

## ライトアップで幻想的に

野底山  
森林公園 紅葉が見頃迎える

飯田市上郷黒田の野底山森林公園で紅葉が見頃を迎え、夜はライトアップが園内を彩っている。赤く染まったモミジが幻想的に照らされ、

来園者を楽しませている。16日まで。ライトアップは2011年に始まり、現在は下黒田の有志約40人でつくる「繫」が主催して

20灯の照明のほか、色とりどりの和傘約

いる。同会によると、今年は例年より10日ほど遅れて色づき始めた。モミジを照らす約

10本や飯田OIDE長姫高校商業科の3年生が制作した竹宵、アーチ状のイルミネーション、ペットボトル型のLED照明「ペットボトル」なども設置し、園内の広場や道をカラフルな光が演出している。

地元保育園の園児がプラスチックコップで制作した飾りや、自分の影を映して写真を撮れるシルエット撮影スポットなどもある。

繫の野牧詔男代表(66)は「今年は色づきが遅かったがようやく見頃となった。ライトで照らされた夜の紅葉を楽しんでももらえたら」と話し、暖かい服装での来場を呼び掛けている。

ライトアップは午後5時から同9時まで。

# 阿南町駅伝に本校生徒協力

2024年(令和6年)11月19日火曜日

南信州新聞

## 1D 城田陸斗さんチーム

### 優勝

## 阿南駅伝に27チーム

### ロードレースにも31人出場

阿南町の「みんな  
で走ろう駅伝競走大  
会」が16日、西條の  
コミュニティの森一  
帯で行われた。クラ  
スや職場、地域の仲  
間で結成した27チ  
ームが出場。町民体育  
館グラウンドをスタ  
ート・ゴールとする  
計5区間18・2キロで  
たすきをつないだ。  
親睦を深めながら  
楽しく競争すること  
で強健な心身を培

い、魅力的で活力あ  
る地域づくりを進め  
る狙いで1978  
(昭和53)年に始め、  
47回目。近年は1周  
3キロの周回コースを  
5周する形式で行っ  
ていたが、今年は参  
加者の声を受けて変  
更し、いずれも町民  
グラウンドを発着点  
としつつ、1、4区  
を1・5キロ、2、5  
区を3キロ、3区を4  
・2キロにして変化を

持たせた。  
駅伝は午前8時50  
分に各チームが一齐  
にスタート。小学生  
と一般の2部門で順  
位を競った。選手は  
グラウンドや沿道に  
集まった町民らの声  
援を受け、各区間で  
熱走した。  
一般の部は、阿南  
第一中学校出身の高  
校生と教員でつくる  
「NEO.勝鯛」が  
優勝。3区で8位か

ら2位に順位を上  
げ、5区でトップに  
立った。3区を走っ  
た主将の城田陸斗さ  
ん(16)は飯田OI  
DE長姫高1年は「最  
高のメンバーで  
走り、優勝できて良  
かった」と笑顔だっ  
た。  
昨年に新設したロ  
ードレース部門も引

個人対抗で1・5キ  
ロのコースを走った。  
1位でゴールした富  
草小学校3年の勝野  
晃生君(8)は「最  
後にグラウンドに帰  
ってきたところで1  
位になった。応援が  
力になった」と話し  
ていた。



27チームがたすきをつないだ阿南駅伝

# 「オーケストラと友に音楽祭」 の基礎コース講習会が 本校で開催されました

2024年(令和6年) 11月20日 水曜日

南信州新聞

## 基礎こそ上達の早道 名フィル迎えて講習会

オーケストラと友に音楽祭

「オーケストラと友に音楽祭」の実行委員会は17日、中学生と一般が演奏の基礎を見直す講習会「基礎コース」を飯田市の飯田OIDE長姫高校で開いた。昨年より40人多い176人が参加し、名古屋フィルハーモニー交響楽団員からパ



練習終了後には和みのひとときも (飯田OIDE長姫高で)

ートごとに指導を受けた。プロの演奏家から楽器の構え方や基礎的な奏法、基礎練習の方法が学べる年に2回の機会で、管楽器・打楽器コースの初級は100人、中級は60人、弦楽器コースは16人が受講した。176人は過去9年で最多。特に中学生が増加傾向にあり、事務局は「名フィルによる質の高い指導を受けて、昨年の基礎コース、今年音楽クリニックが自分の成長につながったと感じ、再受講した人が多いからではないか」とみている。35人から申し込みがあったクラリネットでは、講師の浅井崇子さんの指導で舌を使った技法のタンギング、左手と右手の練習を重ね、徐々にフレーズの難易度を上げてレベルアップを後押し。後半では音階練習を繰り返してしめくくった。浅井さんは「基礎練習は技術の向上に一番つながる。タンギング、指の動かし方の練習によってレベルは少しずつ上がるから、毎日の練習に取り入れて」と呼び掛けた。終了後には質問の時間があり、自分のクラリネットに名前を付けて大切にしているという飯田風越高校1年の塚平陽介さん(15)は、浅井さんの楽器にも名前があるか尋ねて場の雰囲気を和ませた。小学生時代から楽器に親しみ、クラリネット歴は3年半の塚平さんは「歯を痛めて一時期吹けず、最近練習に復帰したのでレベルを上げよう」と受講した。基礎を振り返ることができ、これからも頑張ろうという気持ちになれた」と話した。

# 原動機部がデモ走行を披露しました。

南信州新聞

2024年(令和6年)11月26日 火曜日

## 環境先進地を目指し

### 飯田で 企業や団体、行政がメッセ

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量を実質ゼロにするゼロカーボンの活動推進見本市「南信州環境メッセ2024」(実行委員会主催)が23、24の両日、飯田市座光寺のエス・バードで開かれた。ゼロカーボン社会の実現に向けて積極的に取り組む企業や団体、行政、学生らが集合。「環境先進地」を掲げて屋内外でイベントを繰り広げた。

SDGs(持続可能な開発目標)、エシカル消費、ゼロカーボンといった観点から、環境への取り組みを深める狙い。例年並みの60団体が出展・発表し、2日間で約1500人が来場した。

オープニングセレモニーで中島武津雄実行委員長は「見本市を通じて、体験して、学んで、楽しんでゼロカーボンをはじめとする環境について考えるきっかけにしてほしい」と呼び掛けた。信州大学のグリーン水素・水循環「実証タウン」に飯田が選定されたことにも触れ、「世界をリードする水の研究が南信州地域の活性化の今」と題して基調講演。「主役は私たち！南信州が目指す未来に必要な行動とは」をテーマにしたパネル討議もあった。2日目はエコレンジャーショー、エシカルシンポジウム、自然環境保全ポスター入賞作品表彰式、飯田OIDE長姫高校の生徒が製作した競技用車両のデモ走行、次世代自動車の試乗体験など多彩な内容で来場者を迎えた。

サブテーマに「リニアとともに地域が



環境への取り組みなどを聞く来場者たち

にぎわう環境先進地を目指して」を掲げ、県やJ.R.東海と連携した特別展示も好評だった。

2020年に「南信州環境フェア」として始め、21年に名称を環境メッセにあらためた。

掲載記事提供: (株)南信州新聞社

# 「マルチスポーツ」に親しむ 講座が本校を会場に 開催されました。

2024年(令和6年)11月29日 金曜日

南 信 州 新 聞

## 可能性の発見に多種目挑戦

複数の種目に挑戦して身体機能の向上やけが防止につなげる「マルチスポーツ」に親しむ講座が24日、飯田OIDE長姫高校であった。飯田下伊那地域の児童生徒約60人や保護者、指導者が参加。世界のマルチスポーツ事情を学び、複数の種目でプロコーチから指導を受けた。

飯田下伊那地域の児童生徒を対象にしたまちのクラブ活動「エンジョイスクエア」の講座の一つ。所属する部活動などは異なる競技も経験し、複数のコミュニティへの所属を通じて社会性や協調性を育む機会にもこの願いを込めた。

子どもたちは、バドミントン、卓球、バレーボール、フットサル、ペタンクの中から2つを選んで他校の子どもたちと交流しながら挑戦した。

バレーボールはVC長野トライテックジュニア女子監督の山本憲吾さんが指導。私も子どもたちはバレー



マルチスポーツを体験する子どもたち

## 「マルチスポーツ」講座に60人

「ボール以外もやっていた」と語り、スパイク動作を意識したりリズム感を養う体の使い方なども指導した。

座学では筑波大学体育系教授で体育スポーツ局アドミストレーション部部長を務める大山高氏が、世界のマルチスポーツの現状を説明した。ニュージーランドや豪国、英国などは部活で年2種目、米国は3シーズンに分けて取り組んでいると伝え、「日本のように1つの種目をやり続けることは稀」と指摘。学校での練習量・時間も少ないとし、「世界で当たり前となっているマルチスポーツについて、この機会に考えてほしい」と呼び掛けた。

豊丘中学校2年の久保田花蓮さん(14)は「部活ではバレーボールをやっているけど、もう1種目はフットサルを選んだ。以前少しだけやったことがあったけど、しっかり教わったので継続的に楽しめたら」と話していた。



世界のマルチスポーツを大山氏から学んだ